

참고문헌

특집 | 제로성장기 일본의 경제와 사회

성장신화로부터의 탈출: 제로성장기 일본경제를 보는 새로운 시각 | 다케다 하루히토

C.P.킨دل버거·B. 헤리크, 山本登監 訳, 『経済発展論』改訂版, 好学社, 1981.

デレック・ボック, 『幸福の研究』, 東洋経済新報社, 2011.

フルノー・S・フライ/アロイス・スタッファー, 『幸福の政治経済学』, ダイヤモンド社, 2005.

K.E.ボールディング·E.J.ミシャン 編, 林雄二郎監 訳, 『ゼロ成長の社会』, 日本生産性本部, 1974.

伊東光晴, 『日本経済を問う』, 岩波書店, 2006.

橋本寿朗, 『デフレの進行をどう読むか』, 岩波書店, 2002.

武田晴人, 『仕事と日本人』, ちくま新書, 2008.

武田晴人, 「営利組織と非営利組織: その機能と持続性」, 『日本の未来と市民社会の可能性』, 言論NPO, 2008.

武田晴人, 『新版 日本経済の事件簿』, 日本経済評論社, 2009.

武田晴人, 『国民所得倍増計画を読み解く』, 日本経済評論社, 2014.

武田晴人, 『脱成長神話』, 朝日新書, 2014.

거품경제와 장기불황의 정치경제학적 분석 | 이시이 간지

雨宮処凛ほか, 『下流中年 一億総貧困化の行方』, SB新書, 2016.

ロナルド·ドーア(Ronald P. Dore), 『金融が乗っ取る世界経済 21世紀の憂鬱』, 中公新書, 2011.

藤田昌久 編, 『日本経済の持続的成長: エビデンスに基づく政策提言』, 東京大学出版会, 2016.

原田節雄, 『ソニー失われた20年: 内側から見た無能と希望』, 株式会社さくら舎, 2012.

石井寛治, 『資本主義日本の歴史構造』, 東京大学出版会, 2015.

粕谷誠, 『ものづくり日本経営史: 江戸時代から現代まで』, 名古屋大学出版会, 2012.

菊池英博, 『そして, 日本の富は略奪される: アメリカが仕掛けた新自由主義の正体』, ダイヤモンド社, 2014.

ガバン·マコーマック(Gavan McCormack) 著, 新田準 訳, 『属国(Client State)』, 凱風社, 2008.

孫崎享, 『戦後史の正体 1945~2012』, 創元社, 2012.

森本卓郎, 『雇用破壊 三本の毒矢は放たれた』, 角川新書, 2016.

日経ビジネス 編, 『真説バブル』, 日経BP社, 2000.

佐々木実, 『市場と経済: 「改革」に憑かれた経済学者の肖像』, 講談社, 2013.

高橋伸彰·水野和夫, 『アベノミクスは何をもたらすか』, 岩波書店, 2013.

八代充史ほか 編, 『新時代の日本の経営 オーラルヒストリー』, 慶応義塾大学出版会, 2015.
 吉川洋, 『デフレーション: “日本の慢性病”の全貌を解明する』, 日本経済新聞出版社, 2013.
 湯之上隆, 『日本型モノづくりの敗北 零戦・半導体・テレビ』, 文春新書, 2013.

2000년대 일본의 장기불황과 정권 변동: 신자유주의, 복지주의, 신보수주의 | 김용복

권순미, 「일본 민주당 정권의 정책전환: 증세없는 복지에서 복지를 위한 증세로」, 『한국정당학회보』, 14권 1호, 한국정당학회, 2015. 3.

김기석, 「일본경제는 어떻게 소생하였으며, 어디로 가는가」, 『일본공간』, 창간호, 국민대 일본학연구소, 2007.

김용복, 「1990년대 이후 일본정치경제의 위기와 변화: 성과, 원인, 과제」, 『국제정치논총』, 51집 3호, 한국국제정치학회, 2011.

김용복, 「일본 선거제도 개혁과 정당체계의 변화」, 『한국정당학회보』, 11권 1호, 한국정당학회, 2012.
 다나카 아지치(田中愛治), 「일본 정당체계의 변용: 1980~1990년대의 변화와 무당파층의 확대」, 『한일공동연구총서』, 고려대학교 아세아문제연구소, 2003.

와타나베 오사무 외, 『기रो에 선 일본: 민주당정권, 신자유주의인가? 신복지국가인가?』, 메이데이, 2010.
 이면우, 「일본정계의 ‘우익’ 성향 강화와 동북아: 보수세력 확산의 배경과 의미, 그리고 대외적 파급 효과에 대한 연구」, 세종연구소, 2014.

季武嘉也·武田知己 編, 『日本政黨史』, 吉川弘文館, 2011.

野口悠紀雄, 『大震災からの出發: ビジネスモデルの大轉換は可能か』, 東洋經濟新報社, 2011.

白鳥浩 編著, 『衆参ねじれ選挙の政治學』, ミネルバ書房, 2011.

總務省, 『衆議院議員總選舉, 最高裁判所裁判官國民審査結果調』, 總務省自治行政局選舉部, 各年度.
 中愛治外, 『2009年, なぜ政権交代だったのか』, 勁草書房, 2009.

佐々木毅, 清水真人 編著, 『ゼミナール現代日本政治』, 日本經濟新聞出版社, 2011.

Hatch, Walter F., *Asia's Flying Geese: How Regionalization Shapes Japan*, Cornell University Press, 2010.

Vogel, Steven K., *Japan Remodeled: How Government and Industry are Reforming Japanese Capitalism*, Cornell University Press, 2006.

Farrell, David M., *Comparing Electoral Systems*, Prentice Hall, 1997.

Reed, Steven, *Japanese Electoral Politics: Creating a New Party System*, Routledge Curzon, 2003.

Rosenbluth, Frances M. & Michael F. Thies, *Japan Transformed: Political Change and Economic Restructuring*, Princeton University, 2010.

일본의 비정규직 문제의 현상과 전망 | 오학수

오학수, 「일본의 비정규직 현황과 노사관계」, 은수미·오학수·윤진호, 『비정규직과 한국노사관계 시스템의 변화(II)』, 한국노동연구원, 2008.

오학수 저, 이병훈·이지은·강민정 옮김, 『노사관계의 새로운 지평: 일본의 노조혁신과 노조운동의 부활 전략』, 한울아카데미, 2003.

江刺英信·宮下佳孝, 「最近の正規・非正規雇用の特徴」, 総務省統計局, 『統計Today』 No. 97, 2015.

小杉礼子 編, 『フリーター: 自由の代償』, 日本労働研究機構, 2002.

呉学殊, 「労使関係論からみた従業員代表制のあり方: 労使コミュニケーションの経営資源性を生かす」, 『日本労働研究雑誌』 No. 630, 2013.

厚生労働省, 『国民生活基礎調査』, 2004.

厚生労働省, 『雇用管理調査』, 2004.

厚生労働省, 『第4回21世紀成年者縦断調査』, 2007.

厚生労働省, 『労働組合基礎調査』 各年.

厚生労働省, 『就業形態の多様化に関する総合実態調査報告』, 1994, 1999, 2010, 2014.

厚生労働省, 『労働経済の分析』, 2006.

厚生労働省, 『労働統計要覧』, 2008.

厚生労働省, 『2011年国民年金被保険者実態調査』, 2012.

厚生労働省, 『2013年若者雇用実態調査』, 2014.

厚生労働省, 『賃金構造基本統計調査』, 2015.

厚生労働省年金局, 『平成23年国民年金被保険者実態調査』, 2012.

商工組合中央金庫, 『雇用のミスマッチ等についての中小企業の認識調査』, 2012.

内閣府, 『国民生活白書』, 2003.

内閣府, 『若者意識実態調査』, 2003.

内閣府, 『若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査) 報告書』, 2010.

東京商工会議所, 『新卒者等採用動向調査』, 2002.

総務省, 『労働力調査(詳細集計)』, 各年.

総務省, 『2007年就業構造基本調査』, 2007.

総務省, 『消費者物価』, 2008.

総務省, 『2012年就業構造基本調査』, 2015.

文部科学省, 『学校基本調査』, 2012, 2014, 2015.

労働政策研究・研修機構, 『大学生と就職: 業への移行支援と人材育成の視点からの検討』(労働政策研究報告書 No. 78), 2007.

労働政策研究・研修機構, 『学卒未就職者に対する支援の課題』(労働政策研究報告書 No. 141), 2012.

労働政策研究・研修機構, 『大都市の若者の就業行動と意識の展開: 『第3回若者のワークスタイル調査』から』, 2012.

労働政策研究・研修機構, 『人口減少社会における人事戦略と職業意識に関する調査』, 2005.

労働政策研究・研修機構, 『壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究報告: 就職氷河期から『20年後』の政策課題』, 2015.

労働政策研究・研修機構, 『大学等中退者の就労と意識に関する研究』(調査シリーズ No. 138), 2015.

リクルートワークス研究所, 『第31回ワークス大卒求人倍率調査』, 2014.

日本銀行, 『全国企業短期経済観測調査』, 各年.

젠더 관점에서 본 저성장사회: 저성장으로의 적응을 가로막는 일본의 젠더 차별 |

다케노부 미에코

大日向雅美, 「母性愛神話・三歳児神話をどう見るか」, 広田照幸 編, 『リーディングス日本の教育と

社会③ 子育て・しつけ』, 日本図書センター, 2006.

川口章, 『ジェンダー経済格差』, 勁草書房, 2008.

伍賀一道, 『非正規大國日本の雇用と労働』, 新日本出版社, 2014.

周燕飛, 『母子世帯のワーク・ライフと経済的自立』, 労働政策研究・研修機構, 2014.

竹信三恵子, 『日本株式会社の女たち』, 朝日新聞社, 1994.

竹信三恵子, 『ルボ雇用劣化不況』, 岩波書店, 2009.

竹信三恵子, 『家事労働ハラスメント: 生きづらさの根にあるもの』, 岩波書店, 2013.

深谷昌志, 『教育名著選集② 良妻賢母主義の教育』, 黎明書房, 1998.

ベアテ・シロタ・ゴードン, 『1945年のクリスマス』, 柏書房, 1995.

三井マリ子・浅倉むつ子, 『バックラッシュの生贄: フェミニスト館長解雇事件』, 旬報社, 2012.

藻谷浩介, 『デフレの正体: 経済は「人口の波」で動く』, 角川oneテーマ21, 2010.

森岡孝二, 『雇用身分社会』, 岩波書店, 2015.

八代充史・牛島利明 外 編, 『新時代の「日本的経営」オーラルヒストリー: 雇用多様化論の起源』, 慶応義塾大学出版会, 2015.

山田久, 『デフレ反転の成長戦略: 「賃下げ・賃下げの罟」からどう脱却するか』, 東洋経済新報社, 2010.

흔들리는 열도, 그래도 문학 | 김계자

스즈키 토미, 한일문학연구회 옮김, 『이야기된 자기』, 생각의나무, 2004.

十重田裕一, 「閉塞の現代を映す「蟹工船」プーム」, 『読売新聞』, 2008. 8. 18.

中森明夫, 「又吉直樹論: 小説家・又吉直樹の宿命」, 『文學界』, 2015. 9.

西田谷洋, 「暴力のテキスト: パブル前後のテロリズムと決断主義の位相」, 『日本近代文学』82集, 2010. 5.

沼野充義, 『世界は文学でできている』, 光文社, 2012.

又吉直樹, 『火花』, 文藝春秋, 2015.

‘길거리 문학상’의 인터넷 주소: <http://www.robun.info/>

아쿠타가와상 선정 <http://prizesworld.com/akutagawa/senpyo/senpyo153.htm>

「オリコン2015年 年間 “本” ランキング」, <http://www.oricon.co.jp/special/48458/2/>

연구논단

베를린의 일본 음악유학생 연구: 1920~1930년대를 중심으로 | 이경분

김경일, 「지배와 연대의 사이에서: 재조일본인 지식인 미야케 시카노스케(三宅鹿之助)」, 『사회와 역사』 통권 제105집, 2015.

김문환, 「우에노 나오테루(上野直昭) 저, 미학개론(美學概論)1」, 『미학』 49권, 2007.

김지선, 「근대시기 일본의 음악학교에 유학한 조선인: 도쿄음악학교의 사례를 중심으로」, 『한국음악 사학보』 41권, 2008.

박선미, 『근대여성, 제국을 거쳐 조선으로 회유하다: 식민지 문화지배와 일본유학』, 창비, 2005.

- 이경분, 「북한의 망명음악가 정주 연구: 초기 교향악을 중심으로」, 『통일과 평화』 7집 1호, 2015.
- 이경분, 「독일제국권에서 일본제국권으로 온 망명음악가 연구」, 『국제지역연구』 23권 4호, 서울대학교 국제학연구소, 2014.
- 전명혁, 「1930년대 이강국(李康國)과 그의 인민전선론 인식」, 『마르크스연구』 7권 7호, 2008.
- 정혜선, 「전전 일본공산주의운동의 굴절과정: 대량전향 전사(前史)로서의 32년 태제 시기」, 『일본학보』 44, 2000.
- 秋岡陽, 「山田耕筰と日本の初期オケストラ運動」(1), *Ferris studies*, College of Music 2, 1997.
- 泉 健, 「田中正平における西洋音楽の受容」, 『和歌山大学教育学部紀要 人文科学』 61, 2011.
- 大野芳, 『近衛秀麿: 日本のオーケストラをつくった男』, 講談社, 2006.
- NHK交響楽団, 『NHK交響楽団40年史: 1926~1966』, 日本放送出版協会, 1967.
- 梶野絵奈, 『貴志康一と音楽の近代~ ベルリン・フィルを指揮した日本人』, 青弓社, 2011.
- 加藤哲郎, 『ワイマル共和国の「洋行」日本人』, 岩波書房, 2008.
- 勝本清一郎, 『左翼勉強』, 和田博文, 『言語都市・ベルリン: 1861~1945』, 藤原書店, 2006.
- 小池静子, 『柳宗悦を支えて~ 声楽と民藝の母・柳兼子の生涯』, 現代書館, 2009.
- 後藤暢子, 『山田耕筰: 作るのではなく生む』, ミネルヴァ書房, 2014.
- 津上智実, 「神戸女学院仕込みのピアニスト小倉末子」, 『Studies』 58(2), 2011.
- 辻直人, 『近代日本海外留学の目的変容: 文部省留学生の派遣実態について』, 東信堂, 2010.
- 酒井健太郎, 「音楽における「近代の超克」-諸井三郎の「近代」観念」, 『研究紀要』 29, 2010.
- 滝田善子, 「第2次世界大戦後のわが国音楽教育をめぐる考察(2)諸井三郎の音楽・音楽教育観」, 『頤栄短期大学研究紀要』 39, 2012.
- 「ドイツ音楽界を語る」, 『音楽之友』 1950.
- 仲万美子/三島郁, 「ベルリンの聴衆に届けられた「日本の西洋音楽」: 貴志康一の考える「日本音楽」, 編み出した「西洋音楽」」, 『同志社女子大学 総合文化研究所紀要』 22, 2005.
- 西村将洋, 「藤森成吉ーベルリンへの娘へ」, 和田博文, 『言語都市・ベルリン: 1861~1945』, 藤原書店, 2006.
- 日外アソシエーツ 編, 『音楽家人名事典』, 日外アソシエーツ, 2001.
- 松橋桂子, 『楷書の絶唱 柳兼子』, 水曜社, 2003.
- 和田博文 外, 『言語都市・ベルリン: 1861~1945』, 藤原書店, 2006.
- Hartmann, Rudolf, *Japanische Studenten an der Berliner Universität 1920-1945*, Mori Ogai Gedenkstätte der Humboldt Universität, 2003.
- Heymann-Wentzel, Cordula, *Das Stern'sche Konservatorium der Musik in Berlin. Rekonstruktion einer verdrängten Geschichte*, Diss. Uni zu Künste, 2010.
- Lee, Kyungboon, "Japanese Musicians between Music and Politics during WWII-Japanese Propaganda in the Third Reich," *ITINERARIO* (International Journal on the History of European Expansion and Global Interaction) 38(2), 2014.
- Mclaughlin, Levi, "Faith and Practice Bringing Religion, Music and Beethoven to life in Soka Gakkai," *Social Science Japan Journal* 6(2), 2003.
- Roeder, Maïke ed., "Alle Menschen werden Brüder....," *Deutsche Kriegsgefangene in Japan 1914-1920*,

- Begleitheft zur Ausstellung der OAG, PrintX Kabushikigaisha, 2005.
- Schenk, Dietmar & Grossmann, Linde ed., *Pianisten in Berlin, Klavierspiel und Klavierbildung seit den 19. Jahrhundert*, Hochschule der Künste Berlin, 1999.
- Staatliche Akademische Hochschule für Musik in Berlin, *Jahresbericht der Staatliche Akademischen Hochschule für Musik in Berlin (1918~1941)* [일차 자료].
- Stern'sches Konservatorium der Musik, *Jahresbericht (1924/1925~1929/1930)* [일차 자료].
- Stolberg-Wernigerode, Otto zu, *Neue deutsche Biographie*, Bd.: 2, Behaim-Bürkel, 1955.
- Takenaka, Toru, "Wagner-Boom in Meiji-Japan," *Archiv für Musikwissenschaft* 62(1), 2005.

일본의 초기 근대 건축의 양상과 변모: 식민지 연구를 위한 전제로서의 식민도국 연구 |

김효진

- 기록문화회, 『부끄러운 문화답사기』, 실천문화사, 1992.
- 김용덕, 『일본근대사를 보는 눈』, 지식산업사, 1991.
- 김효진, 「1990년대 이후 교마치야 재생운동의 명암: 교토 니시진의 사례를 중심으로」, 『한국문화인류학』 43권 1호, 한국문화인류학회, 2010.
- 에드워드 사이덴스티커 저, 허호 옮김, 『도쿄이야기』, 이산, 1997.
- 에드워드 사이드 저, 박홍규 옮김, 『오리엔탈리즘』, 교보문고, 1991.
- 윤인석, 「일본의 근대건축」, 『건축운동 4: 한국근대건축개론』, 대건사, 1992.
- 정운현, 『서울 시내 일제유산 답사기』, 한울, 1995.
- 피터 콜린스 저, 이정수 옮김, 『근대건축의 이념과 변화』, 태림문화사, 1989.
- 한경구, 「국제론의 레토릭과 문화론」, 『비교문화연구』 3호, 서울대학교 비교문화연구소, 1997.
- 内田青蔵, 「“洋風”から“和洋併存”そして“和洋折衷”への展開の過程—日本近代初期における上流層の住宅様式の成立過程にみる国家的住宅様式の誕生に関する一試論」, 『동아시아문화연구』 제 53집, 한양대학교 동아시아문화연구소, 2013.
- 内田祥士, 「文明開化の鹿鳴館」, 藤森昭信・内田祥士・時野谷茂・初田亨, 『復元鹿鳴館・ニコライ堂・第一国立銀行』, ユーシープランニング, 1995.
- 榮澤幸二, 『「大東亜共栄圏」の思想』, 講談社学術文庫, 1997.
- 河東義之, 『ジョサイア・コンドル作品集』 1~3, 中央公論美術出版, 1980.
- 熊田英企, 「街並み・建物・商店 明治10年代末の銀座通り」, 藤森昭信・熊田英企・林丈二・林節子, 『復元文明開化の銀座煉瓦街』, ユーシープランニング, 1994.
- 野口孝一, 『銀座物語』, 中央公論社, 1997.
- 初田亨, 「和洋折衷の第一国立銀行」, 『復元鹿鳴館・ニコライ堂・第一国立銀行』, ユーシープランニング, 1995.
- 藤森昭信, 「銀座煉瓦街計画」, 藤森昭信・熊田英企・林丈二・林節子, 『復元文明開化の銀座煉瓦街』, ユーシープランニング, 1994.
- 藤森昭信, 「はじめに」, 藤森昭信・内田祥士・時野谷茂・初田亨, 『復元鹿鳴館・ニコライ堂・第一国立銀行』, ユーシープランニング, 1995.
- 藤森昭信, 「序・文明開化東京の西洋館案内」, 藤森昭信・内田祥士・時野谷茂・初田亨, 『復元鹿鳴館・

- ニコライ堂・第一国立銀行』, 1995.
- 山本祐弘, 『わかりやすい建築講座3近代建築史』, 彰国社, 1972.
- Dirks, Nicholas B. ed., *Colonialism and Culture*, University of Michigan Press, 1992.
- Comaroff, Jean & John L. Comaroff, *Of Revelation and Revolution vol.1-Christianity, Colonialism, and Consciousness in South Africa*, University of Chicago Press, 1991.
- Comaroff, Jean & John L. Comaroff, *Of Revelation and Revolution vol.2-the Dialectics of Modernity on a South African Frontier*, University of Chicago Press, 1997.
- Lawrence, Denise L. & Setha M. Low, "The Built Environment and Spatial Form," *Annual Review of Anthropology* 19, 1990.
- Stoler, Ann, *Colonialism and Culture*, University of Michigan Press, 1992.

글로벌 시각에서 본 일본군 '위안부' 문제: 한일관계의 양자적 틀을 넘어서 | 신기영

- 한국 정신대문제 대책협의회 편찬위원회, 『한국정신대 문제 대책 협의회 20년사』, 한울아카데미, 2014.
- 신기영, 「커뮤니케이션, 초국가적 공론장, 그리고 초국가적 연대: 일본군 위안부 문제해결을 위한 아시아연대를 중심으로」, 『세계정치』 18호, 2012.
- 정진성, 『일본군 성노예제: 일본군위안부 문제의 실상과 그 해결을 위한 운동』, 서울대학교출판부, 2004.
- 조윤수, 「일본군 '위안부' 문제와 한일관계: 1990년대 한국과 일본의 대응을 중심으로」, 『한국정치외교사논총』 제36집 1호, 2014.
- 清水紀代子・山下英愛 編, 『シンポジウム記録「慰安婦」問題の開かれた議論のために』, 白澤社, 2012.
- 戸塚悦郎, 『(普及版)日本が知らない戦争責任: 日本軍「慰安婦」問題の真の解決へ向けて』, 現代人文社, 2008.
- VAWW-NETジャパン 編, 『日本軍性奴隷制を裁く: 2000年「女性国際戦犯法廷」の記録』 全6巻, 緑風出版.
- Chappell, Louise, *The Politics of Gender Justice at the International Criminal Court Legacies and Legitimacy*, Oxford University Press, 2015.
- Chinkin, Christine M., "Women's International Tribunal on Japanese Military Sexual Slavery," *American Journal of International Law* 95 (2), 2001.
- Shin, Heisoo, "Seeking Justice, Honor and Dignity: Movement for the Victims of Japanese Military Sexual Slavery," Hakan Seckinelgin & Billy Wong eds., *Global Civil Society 2011: Globality and the Absence of Justice*, Palgrave Macmillan, 2011.
- International Organizing Committee for the Women's International War Crimes Tribunal for the Trial of Japan's Military Sexual Slavery, *Judgement on the Common Indictment and the Application for Restitution and Reparation*, The Hague, 2001.
- 아시아여성기금 홈페이지 <http://www.awf.or.jp>
- 유엔인권기구 홈페이지 <http://www.ohchr.org>